

キイロヤマトンボ *Macromia daimoji* Okumura

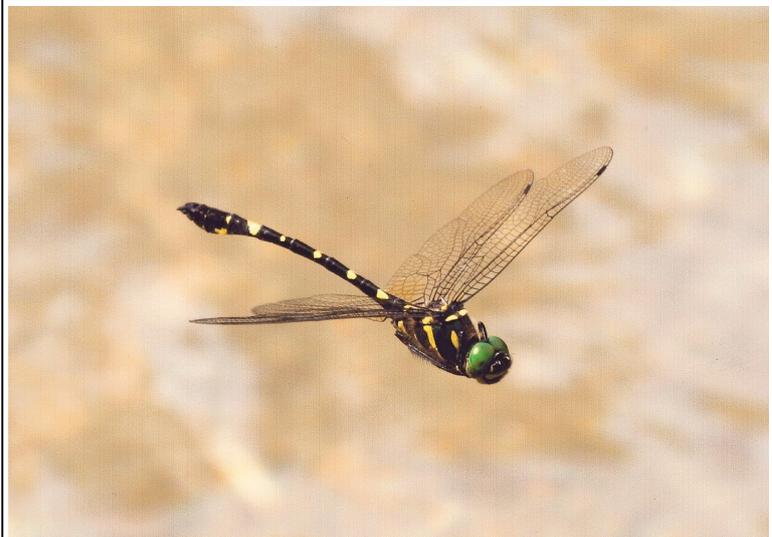
【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は29%、
現存数は12であり、準絶滅危惧
に相当する。

【形態】

体色は黒地に鮮やかな黄色斑
を持つ細身のトンボである。成
熟した♀の翅は黄褐色にけぶる
ことが多い。

和名は黄色いヤマトンボとい
う意味である。



♂. 豊田市月原町, 2006年6月29日, 大野 徹 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～三河の丘陵地を中心とした17市町
村で記録されている。

【国内の分布】

本州東北部から九州南部にかけて記録され
ている。

【世界の分布】

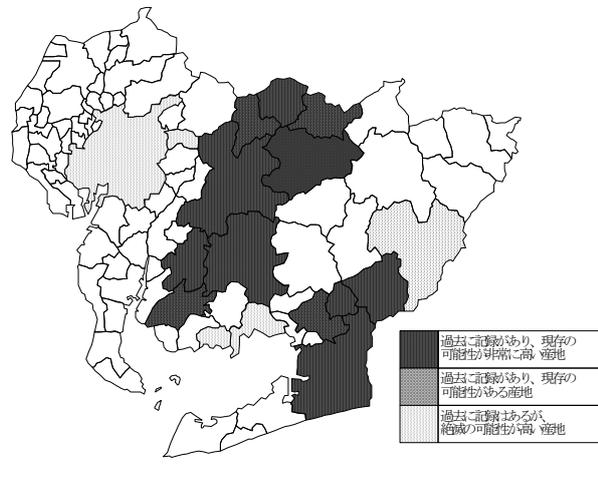
朝鮮半島に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、おもに丘陵地を流れる砂泥底
のある河川中流域で見られる。未熟成虫は、
発生地周辺をあまり離れないようで、付近の
林縁などで摂食飛翔しているのを観察してい
る。幼虫は、流れの緩やかな砂泥底に浅く潜
り込んでいることが多い。細かく見れば、小
さな淵に落ち込む手前で表面に薄く泥をかぶ
る程度の流速となる部位を好む。

成虫は5月後半より羽化し、成熟成虫は6
～9月上旬頃に見られる。幼虫期間は野外で
の幼虫の成長の様子から見ると、2年と推測
される。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

尾張には確実な産地は存在しない。西三河では西尾市から豊田市（旧旭町）にかけての矢作川水系に現存する。東三河では豊川水系に現存する。

本種幼虫は特定の砂泥底を好み、矢作川水系にはそのような環境が多いので、日本有数の産地の一つとなっている。したがって河川工事等によって本種好みの川底が破壊されると、本種は姿を消すことが多い。また水質汚濁にも弱く、名古屋市内の河川では水質悪化や河川改修により絶滅した。また矢作川水系においても、豊田市の籠川や岡崎市の青木川では、良好な川底が残されているにもかかわらず、水質悪化により姿を消したと推定される。

【保全上の留意点】

- 1) 河川の水質汚濁の防止
- 2) 幼虫の生息域となる砂泥底の確保
- 3) 成虫の休息域となる水域周辺の林地の確保

【特記事項】

本種は名古屋で採集された個体を基に記載された。

(吉田雅澄)